

資料名「新庄のはやし田」
テーマ（地域の伝統と文化を大切にすることを育てるための工夫）

学校名（ 北広島町立新庄小学校 ）

- 1 学 年 第6学年
- 2 主題名 伝統を受け継ぐ心 4－（7）
- 3 ねらい 「伝統を受け継いでいる」と言われ、胸が熱くなったさとみの気持ちを考えることを通して、郷土の伝統と文化を大切に、継承していこうとする心情を養う。
- 4 資料名 「新庄のはやし田」（自作資料）
- 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入	1 郷土のよさについて思っていることを発表し合う。	○ 新庄のいいところって何ですかと聞かれたらどう答えますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然が豊か。 ・ 人が優しい。 ・ 新庄のはやし田がある。 	○ 児童がもっている郷土のよさを自由に言わせることで、資料への意識付けを図る。
展 開	2 資料を読んで、さとみの気持ちについて話し合う。	○ さとみはこのごろ、はやし田の練習をどう思っていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ たいがい。 ・ やる気にならない。 ○ 田中さんの話の後、兄さんが真剣に練習しているところを見て、さとみはどんなことを思っていたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 兄さんは伝統を受け継いでいるな。 ・ 田中さんは兄さんたちがはやし田を受け継いでくれることがうれしいんだな。 ○ さとみが大阪から来た人に知っていることを全て話したいという気持ちになったのはなぜでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ はやし田のよさを知ってもらいたい。 ・ 支え、守っている人がいることを知ってほしい。 ◎ 田中さんから「しっかり伝統を受け継いでいる」と言われて胸が熱くなったとき、さとみはどんな気持ちだったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしってのはやし田が好きだったんだ。 ・ わたしも、受け継ぐ一人にならないと。 	○ 自分自身の思いを想起させることで、はやし田に対するさとみの気持ちに共感させる。 ○ 兄や田中さんの言葉をおさえることで、その言葉をさとみがどうとらえたかを考えやすいようにする。 ○ 初めのころの気持ちと対比させることで、はやし田への新しい気持ちの芽生えていることに気付かせる。 ○ 田中さんから声をかけられた場面を想起させることで、伝統を受け継いでいるのが自分たちであることに気付いたさとみの気持ちを考えさせる。

	<p>3 大下さんの話を聞く。</p>	<p>○ 伝統を受け継ぐとはどういうことなのでしょう。(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統に興味をもつこと。 ・ はやし田を受け継いだ人の気持ちを知ること。 ・ 技だけでなく心を受け継いでいくこと。 <p>○ 大下さんの話を聞いてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大下さんがはやし田をそんなに大切に思っておられたことをはじめて知った。 ・ 自分たちは期待されているんだな。 ・ 自分たちが受け継いでいかなければいけないな。 	<p>○ 補助発問をすることでより深くねらいとする価値について考えさせる。</p> <p>○ 伝統を受け継ぐ心について中心的に話していただくことで、自分自身とのかかわりで考えさせる。</p> <p>☆ 郷土のよさを自ら受け継いでいこうとする気持ちをもっている。(発言)</p>
<p>終末</p>	<p>4 これまでの取組について振り返る。</p>	<p>○ これまでの活動を振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでもわたしたちはがんばってきたんだな。 ・ 知らず知らずのうちに受け継いでいたんだね。 ・ これからも、新庄のはやし田を受け継いでいきたいな。 	<p>○ 1年生のころからはやし田に取り組んできたことを写真で振り返り、自分たちも伝統を受け継いだという実感をもたせ、これからの意欲につなげる。</p>

活用に向けたポイント

1 児童の実態

「新庄が好き」と答える児童が6人中5人で地域に対して肯定的な思いをもっている。「新庄のはやし田」は1年生のころから練習しているが、「伝統を受け継いでいる」という思いをもって取り組んでいる児童は少ない。

2 教材開発及び指導過程の工夫

- ・主人公を自分たちと同じ6年生に設定し、共感的に読めるようにした。
- ・主人公の心情に変化をもたらす出来事や、他の登場人物の言葉を効果的に配置した。
- ・「新庄郷土芸術保存会」の方にゲストティーチャーとして参加・協力していただき、伝統を受け継ぐ心や小学生に期待すること等を語っていただいた。
- ・終末で写真を見せ、1年生からはやし田に取り組んできた自分たちの姿を想起させた。

3 発問の工夫

- ・「『しっかり伝統を受け継いでいる』と言われて胸が熱くなったとき、わたしはどんな気持ちだったでしょう。」と問い、練習を面倒だと思ふ気持ちもありながら、自分の中に育ちつつある『伝統を受け継ぐ心』に気付かせ、自分と重ね合わせて考えやすいようにする。
- ・「伝統を受け継ぐとはどういうことか」と問い、対話を深めさせることで、単に「新庄のはやし田」の技を受け継ぐことだけではなく、先人の思いや努力を知ることや大切にしていこうとする心情を育てる。

4 児童の反応

(中心発問)

- ・自分は、はやし田が好きだと改めて思った。
- ・初めは面倒だと思っていたが、この地域にしかない大切なものだという気持ちに変わった。

・伝統を受け継いでいる一人になれた気がして、これからもやっていきたいと思えた。

(伝統を受け継ぐとは)

- ・昔の人がやってきたことをその形のまま残すこと。
- ・自分もやって、次の世代にも伝えていくこと。
- ・次々に伝え、リレーのようにしていくこと。
- ・新庄のはやし田は「途絶えてもまた走り出してきたんだな。」と思った。

(学習を終えて)

- ・保存会があるから、今のぼくたちは、はやし田ができています。途切れさせてはいけません。続けていきたいと思う。
- ・私もリレーの選手になって受け継ぎに参加できていることがうれしい。卒業まで数回しかないが、しっかりとやっていきたい。

5 活用に当たってのポイント

- ・身近に取り組んでいるものの、意義を十分理解しているとはいえないはやし田について、主人公の心情に共感しながら資料を読み、意見を交流することで、自然に自分の思いを語るができる展開になった。児童が共感しやすい主人公の人物設定や、主人公の心の変容に関わる人物や出来事を入れることが効果的である。
- ・ゲストティーチャーの話を聞いたり、実際に自分たちがやってきたことを振り返ったりする中で、主人公が感じた「自分も伝統を受け継いでいるんだ。」という気持ちが自分の中にもあることに気づき、これからへの意欲につなげることができた。このように効果的な指導過程の工夫が必要である。
- ・「伝統を受け継ぐこと」について、時間をとって対話することで考えを深めることができた。主題に迫る発問を工夫し、児童の心の中にある価値をさらに深めさせていく工夫が大切である。

新庄のはやし田

五月に入り、新庄の田んぼに植えたばかりのいねが風にゆれるころ、県北の町のあちらこちらからはやし田の太鼓の音が聞こえてきます。わたしたち新庄小学校の児童も運動会に向け、「新庄郷土芸術保存会」の方に指導を受けて、「新庄のはやし田」の練習をしています。

新庄小学校では、一年生は唄、二年生は早乙女、三・四年生は大太鼓、五・六年生は「サンバイ（音頭取り）」と太鼓・笛・手打ち鉦の囃子というように役を持ち、はやし田を行っています。わたしの担当は大太鼓です。四年生の終わりごろ、希望を聞かれ、わたしは迷わず大太鼓と答えました。それは、「バイ（ばち）」を投げ上げたり、リズムよくたたいたりすると、はやし田を演じているという気持ちになって楽しいからです。

でも、最近、大太鼓は重いし、練習のとき、「もっと、腕を高く上げて。」「六年生なんだから、もっとみんなをリードして。」などとと言われると、いらいらして、以前のように練習が楽しいと思えなくなっていました。

夕ご飯のとき、兄さんに、「さとみ、はやし田の練習、がんばってる？」

と聞かれました。兄さんは、中学生なのに保存会に入っているほどはやし田が好きです。今までもわたしのばちさばきを見て、もっとこうしたらなどと教えてくれました。でも、その晩、

「はやし田の練習ねえ。なんだかたいぎいんよね。」



と、ついわたしは言ってしまいました。兄さんは、

「そんなんじゃないあ、だめじゃろう。もっと本気でやらにゃあ。」

と、声を荒げました。わたしは、怒られて腹が立ちましたが、しばらくして、なぜ兄さんはそんなにはやし田に夢中なのか不思議に思いました。

次の日の夜、わたしは、兄さんにお茶を届けるため、集会所に行きました。集会所では二日後に迫った「鳴滝大花田植」に向けて練習の真っ最中で、中からはサンバイの歌に合わせて笛の音、太鼓の音がぎやかに聞こえてきます。そっと戸を開けると保存会の会長の田中さんがわたしに気づいて手招きしてくれました。

「さとみちゃん、みんな一生懸命じゃろう。大花田植を見に来ちゃった人に喜んでもらおう思うて練習しよるんよ。花田植は室町ごろから始まったらしいが、新庄のはやし田は江戸時代の終わりごろにはもう今のような形じゃったそうなの。明治になってから派手になって、あちこちで共演大会もあってねえ。一時、止めとった時期もあったが、また始めたんよ。それから途切れちゃあいけん、新庄の者で守っていかう思うとるんよ。さとみちゃんの兄ちゃんもじゃが、今年は中学生がようけ出てくれとるんよ。わたしは、若い人がすっかり受け継いでくれとるんがうれしんよ。」

田中さんは、兄さんの方を見ながら目を細めて語ってくれました。兄さんは真剣な表情で、大人の中に混ざって大きく腕を振り上げて太鼓を打っていました。

「鳴滝大花田植」の日、わたしは、両親と初めて大花田植を見に行きました。実は、わたしは今まで何

回も誘われたけど、花田植を見に来たことはありませんでした。花田植が行われる田んぼの周りには、すでにたくさんのお客さんでうめつくされていました。わたしたちが、歩道に立って始まるのを待っていると、

横にいた人たちに、

「地元の方ですか。」

と、話しかけられました。わざわざ大阪から花田植を見に来られたそうです。

しばらくすると、はやし田が始まりました。

「あの田植唄をうたっている人を何というのですか。」

と聞かれました。



「あれは、サンバイといって、はやし田の音頭をとる人です。手に持っているのが『ササラ』といっています。大太鼓をたたいているのが『バイ』です。太鼓のばちに、馬の毛の飾りがついているのですよ。」

「それにしても、サンバイの音頭に合わせて、笛、小太鼓、大太鼓がそろってて、早乙女さんもきれいに植えていかかりますなあ。日本ならではの良さを感じますわ。ええですなあ。」

大阪の方がにこにこしながら話しかけてくるので、わたしも思わず言いました。

「花田植は室町時代から始まって、江戸時代にはもう今のような形だったそうです。途切れた時もあったけど、新庄の人たちが復活させて、保存会を作って守っておられます。わたしたち小学生にも教えてくださっています。保存会だけでなく牛を飼う人や花田植に参加する人みんなでささえて、新庄の伝統を守っているんですよ。」

わたしは、なぜか知っていることを全部話したいと思っていました。

お囃子の音がだんだん大きくなってきました。「新庄のはやし田」のリズムは、テンポの速い八調子。この八調子のリズムに合わせて早乙女さんが、リズムカルに苗を植えていきます。大太鼓のバイが一系乱れぬ動きで手を離れ空中を飛んでいきます。兄さんも真剣な表情でバイを投げ上げています。観客もカメラを向けてしきりにシャッターを切ったり拍手を送ったりして、会場中が一つになっていようです。大阪の方も手拍子をしています。

わたしもいつの間にかサンバイのたたくササラに合わせて大太鼓の振りをしていました。

「おっ、さとみちゃん。しっかり伝統を受け継いどるのう。」
通りかかった田中さんに言われ、わたしは胸が熱くなりました。

田植えがすべて終わり、田んぼから保存会の人たちが上がってきました。わたしに気づいた兄さんが軽く手を振ってくれました。兄さんの目がきらきらしていました。わたしは今日のことを帰って兄さんに早く話したいと思いました。

